

(様式第1号)

### 新規調査研究計画書（全体計画）

調査研究 課 題	二枚貝が保有する下痢症ウイルスの把握と疫学解析
計画期間	平成25年度～29年度 5年間
背 景 必 要 性	<ul style="list-style-type: none"><li>・大洗をはじめ鹿島灘産の岩ガキやホッキ貝等の二枚貝は、茨城県の有力な水産・観光資源であるが、二枚貝については、下痢症を引き起こすノロウイルスによる汚染（体内濃縮）とその生食による食中毒の発生など保健衛生上の課題となっている。</li><li>・近年、ノロウイルス近縁種であるサポウイルス等による下痢症も全国的に散見されており、新たな問題を提起している。しかしながら、サポウイルス等については、二枚貝との関わりが十分解明されておらず、これを明らかにすることは食品衛生の確保及び感染症の予防の観点からも重要であると考えられる。</li></ul>
目 的	<ul style="list-style-type: none"><li>・茨城県産の二枚貝、特に岩ガキが保有する下痢症ウイルスの実態を把握することにより、食品媒介による感染リスクやウイルス種を明らかにする。</li><li>・二枚貝が保有している下痢症ウイルスと県内で発生した食中毒や感染性胃腸炎の原因ウイルスとの関連について解析する。</li><li>・下痢症ウイルスの実用的（迅速性、正確性、簡便性等）検査法の検討</li></ul>
計画内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・二枚貝が保有するノロウイルス以外のリアルタイムPCR検査法を確立し、大洗や鹿島灘産の岩ガキ等が保有する下痢症ウイルスの実態を把握する。</li><li>・二枚貝が保有する下痢症ウイルスの遺伝子解析の方法を検討し、食中毒の原因ウイルスとの関連を解析する。</li></ul>
研究目標 （達成しようとする成果及びその活用方法）	<ul style="list-style-type: none"><li>・茨城県産の二枚貝、特に岩ガキが保有する下痢症ウイルスの実態を把握することにより、食品衛生の確保等に寄与する。</li><li>・二枚貝が保有している下痢症ウイルスと県内で発生した食中毒や感染性胃腸炎の原因ウイルスのデータを蓄積し解析することにより、感染リスクや発症リスクを明らかにすることができる。</li></ul>
実施上の 課題及び 対 応	<ul style="list-style-type: none"><li>・福島第一原子力発電所事故の風評被害により、大洗産の二枚貝の採取量の低迷が懸念される。</li></ul>
備 考	所要経費については、特別電源所在県科学技術振興事業補助金の交付申請を行う予定。